

# 新病院長に聴く

独立行政法人労働者安全機構

山口労災病院長

第 12 回

田口敏彦 先生

と き 令和元年 9 月 26 日 (木)

ところ 山口労災病院 院長室



[聴き手：理事 長谷川 奈津江]

**長谷川理事** 平成 26 年度から始めました県医師会報の「新病院長に聴く」の第 12 回目として、平成 30 年 4 月に山口労災病院の病院長に就任されました田口敏彦 先生にお話を伺いたと思います。

遅くなりましたが、改めてご就任おめでとうございます。まず、病院の沿革と特徴についてのご紹介からお願いいたします。

**田口先生** 当院は、戦後の産業復興に伴う労働災害の急増によって被災労働者の治療と社会復帰促進の医療が強く求められ、昭和 30 年に全国 8 番目の労災病院として開設されました。開院当初は内科、外科、整形外科の 3 つの診療科、ベッド数 50 でスタートしています。

平成 7 年の新病院新築を経て現在 19 の診療科、ベッド数 308 で、宇部・小野田医療圏の中核的な総合病院として発展してきました。

急性期の一般病院として、また地域医療支援病院として専門性の高い医療や急性期医療を中心とした地域医療の推進と勤労者の健康福祉に関わる医療を大きな柱としています。「医療を地域にひらく」をモットーに質の高い医療の提供を目指しています。「ひらく」には「開く」：地域に向かってオープンな病院ということ、「啓く」：啓発活動をするということ、「発く」：発するという意味でいろいろなことの発信地になりたいという意味を

込めています。

診療の特徴として、救急告示病院、災害拠点病院、地域医療支援病院としての機能を持っています。地域医療重視の立場から、地域連携室や入院支援センターを設置して病診連携、病病連携を積極的に行っています。地域連携室の受け入れ患者は年々増加しており、昨年は 4,454 人に達しました。また、地域医療連携カフェという会を立ち上げました。1 年 4 回の開催で、病院以外で働く訪問看護師やケアマネージャーなどの医療関係者を集めて講演や医療情報を提供しており、地域医療全体を盛り上げていこうと思っています。

**長谷川理事** ありがとうございます。「勤労者医療」という言葉について、もう少し詳しく教えていただけますか。

**田口先生** 勤労者の健康と職業生活を守ることを目的として行う医療及びそれに関連する行為の総称です。しかし、労災病院と言っても、労災関係の疾病や外傷だけを扱っているわけではなく、あらゆる疾患、外傷に対応しており、最近の傾向では高齢の患者さんが増加傾向にあります。

**長谷川理事** 労災病院の意義を理解できました。次に臨床研修について教えていただけますか。

**田口先生** 現在 6 名の初期臨床研修医が研修しています。少人数のローテーションという利点はマンツーマンの個人指導が行き届くこと、小さな履修変更などの小回りが利くことが最大の利点です。また、どの診療科をローテートしていても、腰痛、糖尿病、高血圧などの common disease や common symptom についての講義は全員が受けられるようにしています。そして臨床研修が充実するように、1 か月に 1 回は院長室で昼食をとりながら臨床研修医とのミーティングを行っています。

**長谷川理事** 労災病院の副院長で県医師会専務理事の加藤智栄 先生が、「当院の研修では幅広い症例を経験できるので、さまざまな資格が取ることができるのに」とおっしゃるのを聞いたことがあります。

**田口先生** 当院の宣伝、広報がまだまだ不十分なんですね。

**長谷川理事** 女性医師も多く働かれているかと思いますが、働きやすい環境づくり等についてお聞かせ願いますか。

**田口先生** 女性医師確保対策として、平成 20 年 3 月 27 日付け労健福発第 272 号「医師確保対策としての緊急措置の実施について」が発令され、対象者は労災病院に勤務している職員又は勤務を希望する者で、小学校就学前の子の育児のため 8 時間勤務が困難な医師を対象としています。勤務時間は週 20 時間以上とし、対象医師が希望する勤務時間とします。ただし、始業及び終業時刻は院長が定めるものとします。適用期間は対象者が養育する子の 1 歳の誕生日から小学校就学前（6 歳に達する日の属する年度末）までのうち、対象者が希望し院長が承認する期間とします。ただし、制度利用者の申出により、期間途中での制度適用の変更又は中止ができるものとします。つまり、1 日 4 時間程度働いて常勤扱いとするので凄く良い制度です。

**長谷川理事** 育児中の女性医師にとって驚くほど魅力的な制度ですね。何か他の制度はあるのでしょうか。

**田口先生** その他には院内保育園を設置しており、病児保育もやっています。

**長谷川理事** 院内に保育園、病児保育があると乳幼児を持つ親は安心して働けます。

**田口先生** 反対に他院ではどのような良い制度がありますか。

**長谷川理事** 先ほどお伺いした緊急措置のような素晴らしい制度はなかったと思います。女性医師専用の当直室や更衣室があるという病院はありません。

**田口先生** それは大事なことです。

**長谷川理事** こちらの病院には、戒能先生、白澤先生といった錚々たる女性医師が居られますから働きやすいのではないかと思います。

**田口先生** 現在、女性医師は常勤で 6 人、非常勤で 4 人おられますが、それぞれの診療科で頑張っておられます。

**長谷川理事** 次に、新院長としての抱負をお願いします。

**田口先生** モットーとしては、先にもお話したように「医療を地域にひらく」を掲げて、「働きやすい病院」にすることはもちろんですが、むしろ「働き甲斐のある病院」を目指したいと思っています。

**長谷川理事** 本当にそうですね。やはり働き甲斐を持った医療スタッフがいる病院が患者さんにとっても良い病院だと思います。

次に、先生ご自身のことについてお伺いします。先生は京都のご出身とお聞きしております。

**田口先生** そうです。当時の受験制度は、国立は一期校と二期校に分かれ、毎年 3 月 3 日に一期校、3 月 24 日に二期校の入学試験が行われていました。残念ながら一期校はだめでしたが、二期校の山口大学に拾ってもらいました。

**長谷川理事** 卒後、なぜ山口に残られたのですか。

**田口先生** なぜですかね。特に固い決心があったわけではなくて、自分でもなぜ残ったのかなって思いますが、最終的に残ってよかったと思っています。「ゼロベース思考」という考え方があります。それは、今までに得た情報、知識が全部なくても、ある過去の時点に戻ってもその当時と同じ決心ができるかという考え方です。やはり整形外科を選んだことも山口に残ったことも正解だったと思っています。私は結婚式の挨拶をする際に「人生の決定事項で正解なんてないよ。正解にするために努力することが重要なんだよ。」と必ず言っています。

**長谷川理事** 先生はある意味、医師としてのトップである大学教授、大学病院の院長、そして現在の山口労災病院院長を歴任なさっておられますが、それぞれで何か共通すること、異なることはございますか。

**田口先生** 大学時代も現在も、リーダーとして気をつけていたことは、孤独であっても孤立しないように心がけていました。大学病院の院長から当院の院長になった当初は、もの凄く不自由というかデメリットと言いますか、400 床以上ないと同じことをやっても加算が付かない、それが病院の弱みとっていました。しかし 1 年経って気が付いたことは、病院に弱みとか強みがあるのではなくて、それは病院の特徴なんだと気づき、その特徴を活かせばよいという考え方になりました。そう考えると凄く楽になって、ベッド数が少なくてもそれで頑張ればいいんだと思うようになりました。

**長谷川理事** 状況に応じて考え方が変わって来ら

れたのですね。

**田口先生** そうだと思います。病院の規模は小さくなりました。それに伴い勤務する職員の人数が大学の 3 分の 1 ぐらいになったので、人の名前が覚えやすくなり、院長としての考え方も伝えやすくなりました。

**長谷川理事** 事務系スタッフのお名前も覚えられましたか。

**田口先生** ほとんど覚えていると思います。

**長谷川理事** 大学病院では困難なことです。次に、趣味について教えていただけますか。

**田口先生** 趣味はクルージングで船舶 1 級免許を持っています。後はスキーですね。性格が負けず嫌いなので絶対に勝負事はやってはいけないと思っています。もしゴルフなんかしたら毎日練習してしまうような気がします。

**長谷川理事** 素敵なお趣味ですが、現在クルージングの時間がございますか。

**田口先生** 天候と休みが合わないと行けないので今年も 3 回ぐらいしか行ってないですね。

**長谷川理事** どちらの方に船を出されるのですか。

**田口先生** 瀬戸内海です。関門海峡より向こうには行きません。

**長谷川理事** あんなに船が多く行き交う関門海峡で航海とは凄いことです。

**田口先生** 大きい船が来たらビクビクしますよ。

**長谷川理事** スキーはどここの山に行かれますか。

**田口先生** 今年は長野の乗鞍に行きました。以

前、よく行っていたのは瑞穂ハイランドです。土曜の昼ぐらいから行くのなら、女鹿平に行ってナイター滑りですかね。

**長谷川理事** どちらの趣味もアクティブで季節を感じる魅力的なスポーツですね。

**田口先生** 怪我をしないようにしています。

**長谷川理事** 次に、若い医師へのメッセージをお願いします。

**田口先生** 大学にいたころから、整形外科に入局した連中に最初に必ず伝えることが5つあります。

1つ目は、明確な目標を持つことで5年先の自分を想像できること。目標となる人あるいはペースメーカーになる人を見つけることです。

2つ目は、言葉を選び、礼儀正しく診療すること。これはどんな患者さんに対しても一定の自分の丁寧な言葉で話すことが大切で、相手によって態度を変えているようでは絶対に自分のペースで診療ができません。常に一定のペースで礼儀正しくすることが必要です。

3つ目は、十分な国際性を持つこと。それには英語論文を読む又は書く、国際学会に参加してお

いたほうがよいと思います。

4つ目、知識を記録すること。各部位の診察手順は自分なりのものを作って早い時期に定型化し、それを経験に応じて改良すること。そして知識はカード式のデータベースでパソコンに保存するのも大事です。

5つ目は、基礎的あるいは臨床的研究を一生のうちのある時期にやっておくこと、短期間でもいいから本気で取り組んでほしいです。そうすれば論文を批判的に読める思考力がつくと思います。

**長谷川理事** 非常に具体的で、医師であれば、どれも非常に大切なことです。

最後に座右の銘を教えてくださいませんか。

**田口先生** 「一日一生」、とにかく今日を一生懸命に生きるということです。

**長谷川理事** 本日はお忙しい中、ありがとうございました。先生のこれからのご活躍と山口労災病院の発展を願ひまして、インタビューを終わらせていただきます。

